
レイン・チェック

端木阿里寿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レイン・チェック

【Nコード】

N0995F

【作者名】

端木阿里寿

【あらすじ】

声を失ったシンガーと哀しいソプラニスタ

drop1; NIMBUS

また雨か。

頬で弾けた水滴に、ビル街の上に低く広がった鈍色の曇天を見上げる。

九月の長雨。

いつまでも晴れない気怠い空。

雨は嫌いだ。

”レイン”と名乗っているのに。

それとも、レインという名を持つようになってからの事だったろうか、雨を疎ましく感じるようになったのは。

今日の昼過ぎに、マネージャーの及川から電話が掛った。

午前中は私が就寝しているのを知っているから、彼の電話は決まっています。午後。

起きていても、電話に出る事は滅多にないけれど、留守電相手に話せば、私に伝わると彼は心得ている。

「お早うございます、及川です。」

鬱陶しい位に軽快な、毎度の挨拶が始まった及川の声は、ライヴ開催が決まったという用件を伝えていた。

「ライヴは嫌いだって、言ってるじゃない。」

嬉々として喋り続ける及川に、電話を取らぬまま苦々しく返答する。既に好き嫌いで仕事を選ぶ身分でなくなった現実が、腹立たしさに輪を掛けていた。

”^{レイン} 怜音——今世紀最大にして最後のディーバ”

新進気鋭のアーティストとして売り出された頃、自分に付けられたキャッチフレーズを思い出し、皮肉な笑いを洩らす。

今世紀って、いつの話よ？

天壤無窮の歌声と賞された天資の才も、忘れ去られるのに数年を待たなかった。

今、自分を振り返るのは、過ぎた年月分年老いた容顔に、過去の栄光の影を見付けて、ひそひそと囁き合う大衆と、今も残存する一部の熱狂的な信者だけだ。

憐みや蔑みの目が厭わしくて、街に出る時は目深に帽子を被って歩く。

「レイン、レイン、レイン。雨も悪くないじゃない。」
急に激しくなった雨脚に、慌てて傘を広げる通行人達を見ながら考える。

傘の中からじゃ、私の顔は見えないでしょう。
テレビでキャスターの告げていた降水確率から、雨を知りながら傘を持って出なかった怜音は、降り頻る雨粒のシャワーの中、再度帽子を深く被り直した。

drop2; toady

敢えて出向く必要も無かったが、無駄にせよ、一言言ってやりたい。怜音は市街地に立つ5階建てのビルを見上げた。

2、4階が、怜音の所属する事務所”アルタイゴ・プロ”が間借りしているスペースだ。

雨のせいで時刻より暗くなった空の下、”aLtErEgo”の口ゴを形作ったイルミネーションが乱反射している。

総ガラス張りの明るい2階オフィスは、開放的なイメージを演出している。

だからと言って、決して明るくも開放的な空間でもないが。

エレベーターのドアが開くと、先ず目に入るのは、視界を遮る目隠しの衝立。

右隅に置かれた傘立てには、数本の傘が雨の雫を垂らしていた。

無言で事務所内へと闊歩して踏み入った怜音を、真っ先に見付けたのは、社長の飯塚千影だった。

「怜音ちゃん。何なお、濡れ鼠で？傘くらい差しなさいよ。歌手なんだから、一応。ほら、タオル。」

「ライヴ、決まったんですか？」

一応って何？、と思いながら右から左へ聞き流して、渡されたタオルで水滴を拭いつつ、要件に入る。

「ああ、そうそう、及ちゃんから聞いた？ビッグ・チャンスよ。こんなチャンスがアナタに舞い込むなんてビックリよ。棚から牡丹餅、二階から目薬ね。」

後の慣用句は、語呂が良くて繋げたのだろう。

グラビア・アイドル崩れで、良く回る達者な舌を持つ千景は、そのお蔭で一時はタレントとしても、テレビで華やかに活動していた。

故に、喋る事自体が体力と時間の無駄というオーラを全身から発す

る怜音の寡黙さを、千景は端から見下していたし、怜音自身の事は崩しの利かない厄介者と考えていた。

対して、怜音と言えば、千景をけたたましい声を立てる、ぼやけた幻覚としてのみ捉えていた。

実際、所属してから今迄、千景の顔をまともに見た事が無い。

「ライブ、苦手なんですけどね。」

千景は鼻先で短く笑った後、子供をあやすような顔を作った。

「及ちゃんからは未だ詳しく聞いてないのね。心配ご無用。メインはあまね聖だから。怜音ちゃん^{ひつ}は、彼に合わせて適当に歌ってれば大丈夫なの。安心した？」

「あまね聖……？」

「アナタ、知らないの？」

無意味に勝ち誇った声色で笑った千景は、訳知り顔で解説を始めた。知ってるわよ、彼の事なら。

音楽関係者でなくても知ってるって、マスコミの寵児なんだから。千景の騒音を聞きながら、怜音は奇才のソプラニスタとして脚光を浴び、今や世界を舞台に三面六臂の活躍を見せる、若手オペラ歌手の姿を思い浮かべていた。

「どうしてオペラ歌手の舞台に、私が参加するんですか？畑違いですよね。」

「コラボレーションよ。オペラとポップスとの融合。古典と現代との対話。今、流行りでしょう、合わない物を無理矢理混ぜ合わせて楽しむのが？」

「はあ、そうですね……。で、なんで私なんですか？」

「それがね。くだらないのよ、これがまた。」

一人思い出し笑いをしてウケる千景。

アンタ以上にくだらない物が存在するとは驚きだ。

「あまね」に「雨音」を当てて、雨をイメージした構成にしたいらしいわ。それで、雨と言えば、レインちゃん？安直よねえ。」
確かに安直過ぎる。

安直過ぎて、主催者の意図を測りかねる。

間違っても、あまね聖のアイデアではなかつと、怜音は事務所の窓から、歩道を流れて行く傘の群れを眺めながら考えていた。

drop ; boondoggie

その後、外回りの営業から戻ったマネージャーの及川と共に、怜音は打ち合わせ用の個室が並ぶ、階上へと向かった。

怜音が到着した頃より雨脚は強まっており、及川は階段を登りながら、タオルで頻りに滴る雨と汗を拭っていた。

折り畳み式の机とパイプ椅子のある個室で、怜音は汗の引かないマネージャーに、来客用にストックしてあるペットボトルの茶を手渡す。

礼を言いつつ、茶を飲んで一息吐いた及川が、落ち着いて話が出るようになるまで、怜音はパイプ椅子から、彼の所作を眺めていた。

「あまね聖だつて？」

漸く正面の椅子に腰を下ろした及川に、怜音が口を開く。

「そうなんです。向こうからのオフア―で。先ず、今度のライブについて、概略を説明させて下さい。」

及川は、ライブが日頃オペラに関心の薄い若年層、殊、あまね目当ての女性客をターゲットに、観客の新規開拓を目的としたものである事、故に選曲も、専門的なオペラ歌曲ではなく、一般人に馴染みのある曲が中心である事などを手早く説明した。

「場所は、立地と音響と、その他諸々の理由から、レ・ミューズ・ホールという事で。日程は11月の――」

「は?!」

「何ですか？」

縦板に水と流れる話を堰き止められて、及川はきょとんとした。

「11月って言った？」

「はい、11月23日です。祝日ですから、チケットの売れ行きも好調――」

「コーヘイ!!」

怜音が金切り声を上げる。

及川耕平が、マネージャーのフルネームである。

「アンタ、ふざけてんの？！もう9月も末じゃない。本番まで2ヶ月足らずのライブなんて、どうやって準備するのよ？」

「いえ、ライブの準備は、向こうサイドで万事滞りなく進んでいきますから。こちらは特に何も。」

「私の歌の準備はどんなのよ？」

「それも万端です。」食って掛かる怜音の怒りの鋒先を、食えぬ笑顔で軽くいなす。

「向こうと掛け合って、新曲フルコーラス、みっちり歌える時間を奪取してきました。アレンジはライブの雰囲気に合わせて、管弦楽調にという注文ですが、兎に角そこは怜音さんメインですから。」

3ヶ月前に配信限定で発表した久々の”新曲”を、大勢の聴衆の前で歌えるのだと、及川は得意満面で告げた。

CDでは売行きを全く見込めぬので配信オンリーで発表されたが、その配信でも伸び悩んでいる曲を、宣伝する千載一遇の機会。

はつきりとは言わぬものの、その様な主旨の言葉で、及川は怜音を激励した。

「コーヘー。アンタって、ホント、最高のマネージャーだわ。」

厭味も皮肉も通用しないタフなパートナーは、怜音の称賛を喜んで受けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0995f/>

レイン・チェック

2010年11月2日02時52分発行